

THE 5TH
GENERAL PLAN OF
HAYAMA TOWN
2025-2040

Hayama became a town from a village on January 1, 1925,
and celebrated its 100th anniversary on January 1, 2025.

2040年。

わたしは、〇〇歳になっています。

町民一人ひとりが、2040年の自分、大切な人たち、
そして、町の未来を想像することから、
葉山町の総合計画は始まります。



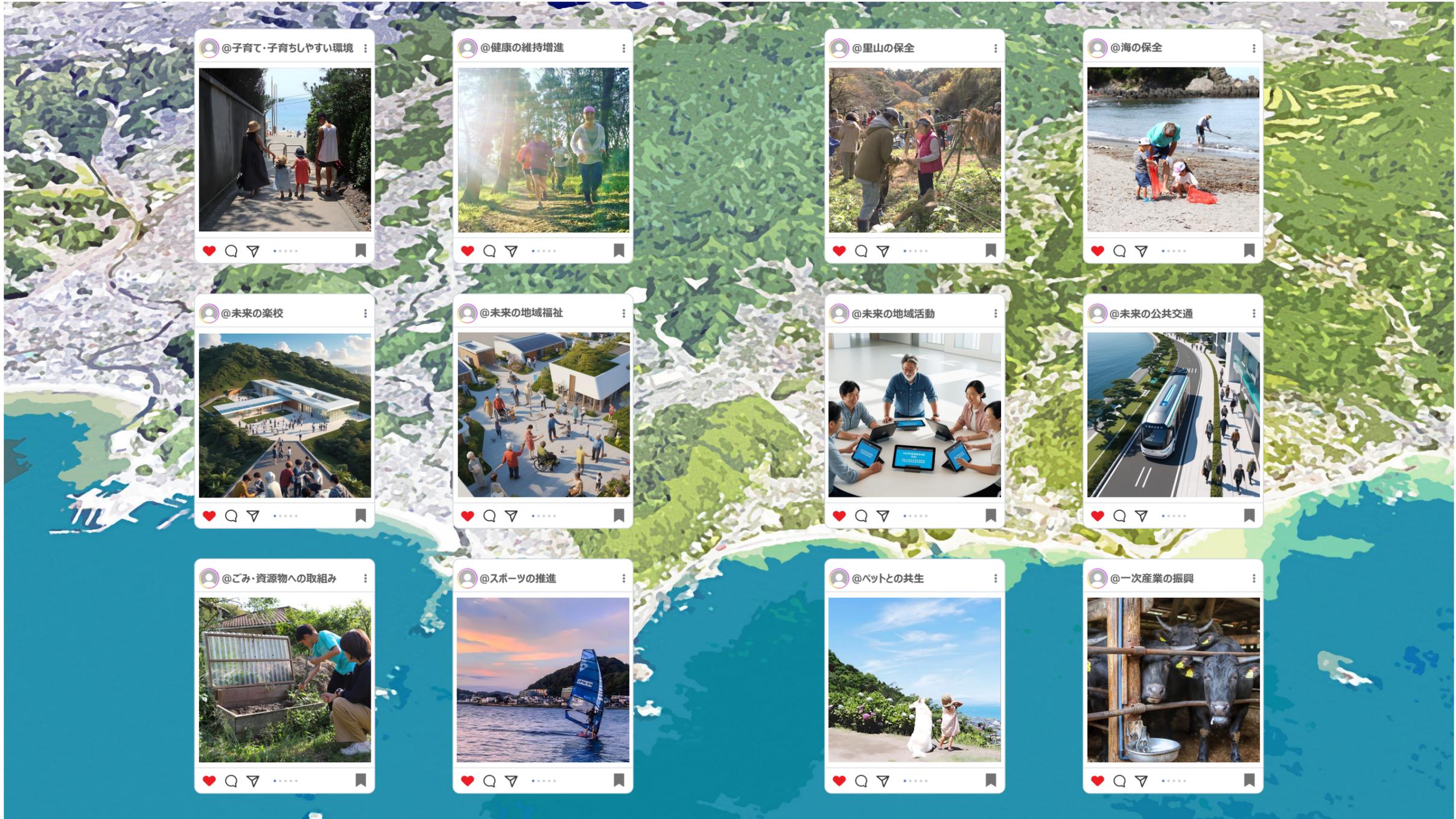
Google Earth を加工し作成した葉山町 (Data SIO,NOAA,U.S.Navy,NGA,GEBCO,TerraMetrics)

※ 総合計画とは、町が策定する行政計画のなかで最上位の計画です。
町の将来像を示したまちづくりの指針や、目指すまちづくりの方向
性や施策などを定めているものです。

2040年に目指すまちの姿

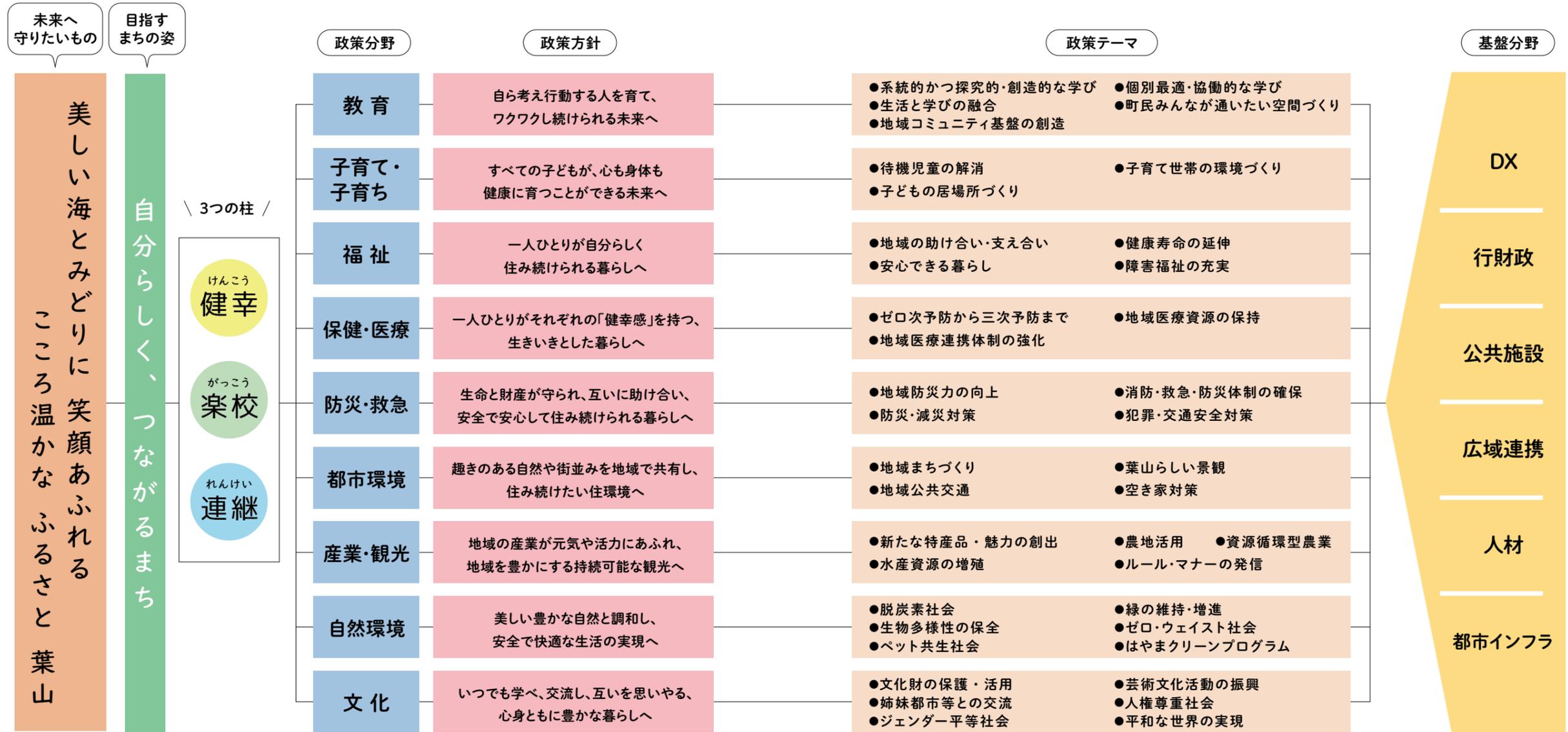
～未来へ守っていくもの、未来へ進めていくもの～

自分らしく、つながるまち



背景は、Google Earthを加工し作成 (Data SIO,NOAA,U.S.Navy,NGA,GEBCO,TerraMetrics)

第五次総合計画の施策の体系



3つの柱

けんこう 健康
「健康」とは、美しい豊かな自然環境と共生し、それを活かした病気予防への取組みと、保健・医療・福祉等の取組みによって、町民が健康と幸せを享受し続けることができる暮らしのことです。

がっこう 楽校
「楽校」とは、知識の詰め込みから思考力等を重視する学びをつくる、そうした学びに適した空間でありながら地域のみんなが通いたくなる空間をつくる、そこでは多くの人たちが教育を通してつながることでコミュニティベースのウェルビーイングが感じられる、そんな新しい学びをつくることです。

れんけい 連継
「連継」とは、未来へ葉山を受け継いでいくために、町に関わる全ての人が連携し、地域の力となる、これからのまちづくりのことです。

2040年の葉山町に向けて



葉山町は2025年1月1日に町制施行100周年を迎えました。葉山町を育み、大切にしてくださってきた先人に深く感謝申し上げるとともに、今も変わらず町を愛し、大切にしている皆様へ、心からお祝いを申し上げます。

この度、2025年から2040年までを計画期間とする「第五次葉山町総合計画」を策定しました。策定にあたっては、町民アンケートやワーキンググループ、小中学生アンケート、パブリックコメントなどを実施し、幅広いご意見をいただきました。また、総合計画審議会委員の皆様、町議会議員の皆様など、本計画策定に貴重なご意見をいただきました関係各位に、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

町の印象を問うアンケートの結果を見ると「葉山が好き」「一度出て、なお好きになった」など葉山への愛を語る言葉に溢れています。人々の町への思いが景観を守り、それがまた新たな葉山好きな人を惹きつけるという好循環が、葉山には備わっています。町制施行から100年、その間、さまざまな先人たちの努力もあり、葉山は、人が幸福に暮らす町として一つの先進モデルを築いてきました。

2040年に向けて、そして、次の100年に向けての葉山はどのような指針を基に進めばいいのか。最も大事なことは、この町の『人の生きる、に働きかける変わらぬ魅力を守り続ける』ということではないでしょうか。

守るということは、まったく変えないということではありません。縮小していく社会のなかで、変えるべきは変え、時代の変化を敏感に感じ取りながら、葉山を守るとはどういうことか、そのためにできることは何かを常に議論し、行動し続けることです。「第五次葉山町総合計画」の推進に向けては、そのことを念頭に、官民一体となって地域自治をさらに進展させ、葉山らしいウェルビーイングの姿である「自分らしく、つながるまち」の実現に向けて、全力を尽くしてまいります。

2025年3月

葉山町長 山梨 崇仁

目次

基本構想

- 01 計画の基本的事項 01
- 02 葉山町の概要 03
 - Column ～ データで見る葉山町 ～ 06
- 03 将来予測 07
- 04 町民の想い 10
- 05 2040年「自分らしく、つながるまち」へ 12
 - Column 2040年 葉山みらい日記 13

第1期基本計画

- 01 基本計画の目的・役割 19
- 02 施策の体系 21
- 03 基本計画の3つの柱 23
- 04 政策分野における取組み 27
- 05 基盤分野の基本的な方向性 47
- 06 SDGs (持続可能な開発目標) との関係 53
- 07 進行管理 55

資料編

- 01 策定体制 59
- 02 葉山町総合計画策定条例 60
- 03 町民参加 62
- 04 議会の取組み 64
- 05 総合計画審議会 65
- 06 行政計画等一覧 70
- 07 用語集 77

基本構想

(2025年度-2040年度)

01 計画の基本的事項

1. 計画の位置づけ

第五次葉山町総合計画（以下「第五次計画」という。）は葉山町が策定する計画のなかで最上位のものであり、町の将来像を示したまちづくりの指針として、葉山町が目指すまちづくりの大きな方向性やそれを実現するための施策などを定めています。

また、葉山町は2025年1月に町制施行100周年を迎えましたが、第五次計画はこれまでの100年の歴史を踏まえ、そして、これからの100年の未来を見据えながら、きたる2040年に向けて葉山町の目指す姿を描いた計画です。

2. 計画策定の趣旨

葉山町は、2015年3月に2024年度を目標年次とする「第四次葉山町総合計画（以下「第四次計画」という。）」を策定しました。第四次計画基本構想では、これまで築きあげてきたまちづくりを尊重・継承しながら「人を育てる葉山」「暮らしを守る葉山」「活力を創造する葉山」「みんなでつくる葉山」の4つの基本理念に基づいた新しいまちの将来像を「美しい海とみどりに 笑顔あふれる ころろ温かな ふるさと葉山」として掲げるとともに、まちづくりのための基本目標とその目標を実現するための施策の大綱を定め、着実に推進してきました。

しかし、第四次計画期間中には、人口減少・高齢化社会の進展などの社会構造の変化や、激甚化する自然災害の多発、世界中に大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症の感染拡大や国際情勢の不安定化など、予測しえなかった事柄が次々と起こりました。その一方で、情報通信技術の飛躍的な発展によって、デジタル化の急速な拡がりが進んでいます。

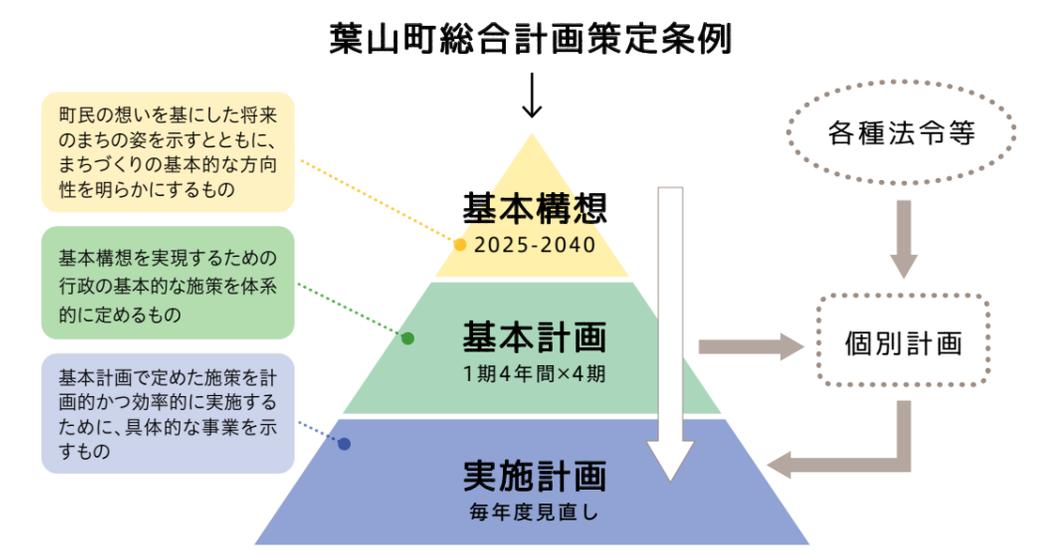
こうした先の見えない時代にあっては、不測の事態に柔軟に対応するとともに、町の将来を見据え、長期的なビジョンを町民と町行政が共有し、葉山町の目指す姿へ向けて着実に施策を進めていくことが重要です。こうしたことから、葉山町の目指す姿を町民とともに実現していくために、第五次葉山町総合計画を策定します。

そして、この計画では、葉山の豊かで緑あふれる自然を未来へと守りつないでいくこととあわせて「持続可能な開発目標（SDGs※）」を踏まえつつ、町民一人ひとりがよりよい社会の一員として生活できることを目指します。

3. 計画の構成・期間

この計画は葉山町総合計画策定条例に基づき策定するもので、基本構想・基本計画・実施計画の3層構造から成るものとします。基本構想の計画期間は2025年度から2040年度までの16年間とします。基本計画は4年間ごとに、実施計画は年度ごとの予算事業と連動し毎年度、それぞれ見直すこととします。

また、各行政分野の個別計画とも連動し、葉山町の目指す姿を実現していくために、第五次計画の構成は下図のとおりとします。



西 暦(年度)	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040												
和 暦(年度)	令和7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22												
基本構想	16年間																											
基本計画	4年間（1期）				見直し作業				4年間（2期）				見直し作業				4年間（3期）				見直し作業				4年間（4期）			
	毎年度見直し																											
	毎年度見直し																											
	毎年度見直し																											

第五次計画の構成

02 葉山町の概要

総人口

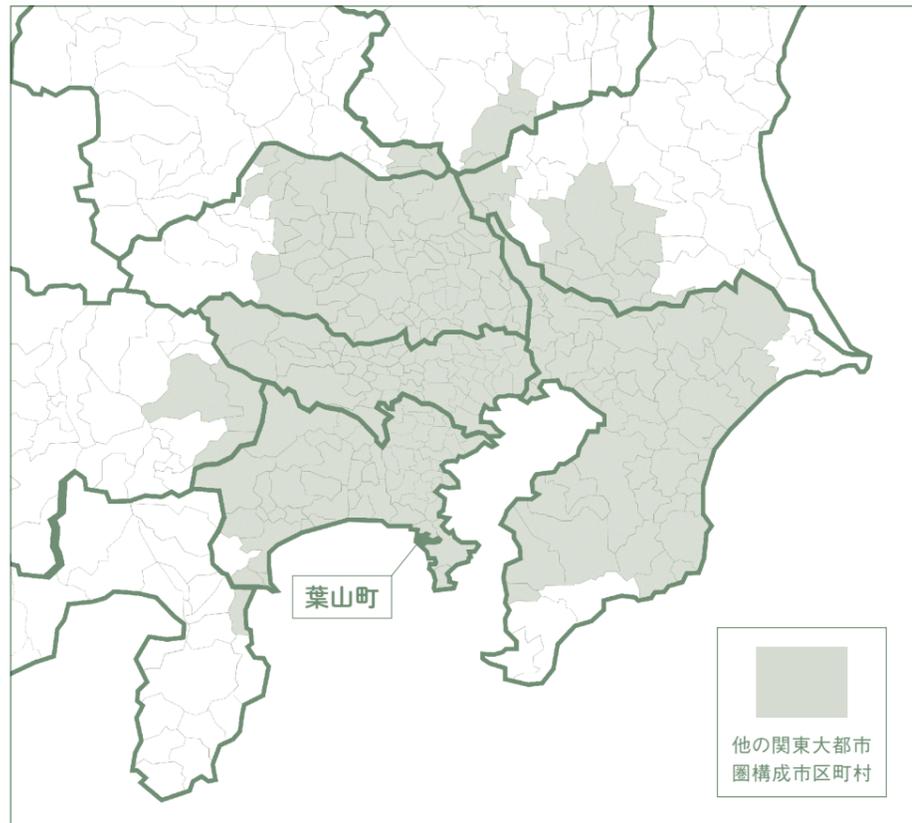
住民基本台帳による2024年4月1日現在の人口は32,144人(高齢化率31.4%)です。2012年11月にはピークとなる33,890人となりましたが、その後は微減傾向が続いています。

葉山町の人口増減の特徴としては、子育て世帯の転入が多く、転入数が転出数を上回る社会増が概ね続いているものの、死亡数が出生数を上回る自然減が続き、社会増より自然減が多いことから、全体では減少傾向が続いています。

関東大都市圏内としての葉山町

葉山町は下図のように関東大都市圏に位置しています。2020年国勢調査によると、葉山町の人口は関東大都市圏の0.08%で、215自治体中162番目の人口規模です。

葉山町は東京から50キロ圏内に位置しており、都心へ通勤・通学ができる一方で、海や山などの美しく豊かな自然に恵まれています。2020年国勢調査によると、葉山町の昼間人口は夜間人口の77.8%ですが、この割合は県内で4番目に低い数字です。これは県内他自治体に比べて、多くの人々が昼間は町外に出ているということを表しており、葉山町は関東大都市圏内で、都心等へ通勤・通学のために町外へ人が出ているベッドタウンとして位置づけられると言えます。



葉山の「海」

葉山町の西部にある葉山海岸は、森戸海岸、芝崎、一色海岸、小磯、大浜海岸、長者ヶ崎海岸等から成り立つ、砂浜と岩礁が交互に連なっている南北4キロメートルにおよぶ美しい海岸線です。葉山海岸は1996年に一般社団法人日本水産会などが選定した「日本の渚百選」に、また、一色海岸は2013年にCNNの「世界の厳選ビーチ100」に選ばれました。

葉山の「山・川」

葉山町の南東には宝金山や峰山の丘陵、北東には阿部倉山・二子山・仙元山等の丘陵、町の中央には三ヶ岡山(大峰山)と、3つの山塊があり、これらの山々を水源とする下山川、森戸川が西へ流れ、それぞれ相模湾に注いでいます。

また、土地の総面積に対する林野面積の割合である林野率は51%で、県平均39%を上回っており、風光明媚な美しい山と山林に覆われています。町内の素晴らしい緑は「かながわの名木100選」をはじめ、複数のものに選定されています。

農業・漁業

総農家数は減少傾向にあり、2020年農林業センサス※によると102戸でしたが、そのほとんどが自給的農家です。耕地面積32haのうち畑が29haを占めます。漁業経営体数は、農家同様に減少傾向にあり、2018年漁業センサス※によると、34経営体でした。

商工業・観光

町内には大規模なショッピングモールなどはなく、スーパーマーケット・ドラッグストアを除き個人経営の商店が中心です。葉山町へは、夏の海水浴客や「葉山女子旅きっぷ」の利用客、山へのハイキング客などを中心に一年を通じて多くの観光客が訪れますが、毎年度実施される神奈川県入込観光客調査結果によると、宿泊観光客数は少なく、95%以上が日帰り観光客であるという結果が続いています。

湘南国際村

1994年に葉山町と横須賀市にまたがるかたちで開村した湘南国際村は、国立大学法人総合研究大学院大学、公益財団法人地球環境戦略研究機関の2つの研究施設と、多くの研修施設が立地し、国際的な学術研究、人材育成、技術交流、文化交流等の事業が展開されるなど、国内外を問わず多くの方に利用されています。

～ データで見る葉山町 ～

国や県の統計データ等から見る葉山町の姿は次のとおりです。

指標名	データ	出典
人口1万人あたり 100歳以上人口	15.9人 (県内で2番目に多い)	神奈川県年齢別 人口統計調査結果報告 (2023年1月1日現在)
納税義務者 1人あたり 総所得金額	4,447千円 (県内で2番目に高い)	2022年度市町村 税課税状況等の調
1住宅あたり 延べ床面積	112.91㎡ (県内で1番目に広い)	2018年度 住宅土地統計調査
人口1千人あたり 刑法犯認知件数	2.29件 (県内で3番目に少ない)	2022年刑法犯罪名別 市区町村別認知件数
人口1人あたり CO ₂ 排出量	3.15t (県内で2番目に少ない)	自治体排出量カルテ 2020年度実績
一般廃棄物 リサイクル率	50.4% (県内で2番目に高い)	2021年度 一般廃棄物処理実態調査
人口100人あたり 犬の登録数	8.04頭 (県内で1番目に多い)	神奈川県HP 「2022年度犬の登録頭数等」 ほか

※上記のデータは国・県の統計データ等から算出していますが、民間企業が実施している「住み続けたい街ランキング(全国版)」で3年連続 No.1、「社長の住む街ランキング(町村ベース)」で県内で1番目に多い、という結果が出ているなど、民間のランキングでも葉山町がランクインしています。



医療

葉山町は「第8次神奈川県保健医療計画」において「横須賀・三浦二次保健医療圏」に含まれています。葉山町は自治体規模として小さく、町内の医療機関のみでは医療が完結できないこともあるため、広域圏内での連携協力体制を構築しています。

消防・救急

複雑化する消防・救急要請に迅速かつ的確に対応すべく、2015年より葉山町と横須賀市と共同で「横須賀市・葉山町消防指令センター」を設置し、119番通報の受付、消防車・救急車の出場指令を行っています。

交通・道路

葉山町には鉄道駅がなく、公共交通はバス・タクシーに限られています。路線バス網は、JR横須賀線の逗子駅及び京浜急行逗子線の逗子・葉山駅への乗り入れを中心とする、京浜急行バス株式会社の路線バスによって形成されています。

主要幹線道路は、南北に国道134号、沿岸部は県道207号、東西には県道27号などいくつかの国・県道が町内を走り、町道が網の目状に巡っています。

上下水道

葉山町の上水道は神奈川県営水道の給水区域に含まれています。

下水道は市街化区域で敷設・整備を進めており、2025年に概成することを目指しています。市街化調整区域は合併処理浄化槽の普及に努めており、下水道と合併処理浄化槽の処理人口を合わせた汚水処理人口普及率は、2023年度末時点で87.76%です。

歴史

葉山町の西北部には逗子市とまたがるかたちで、4世紀に築造された県内最大級の国指定史跡である長柄桜山古墳群があります。

近代に目を向けると、19世紀末には名士の別荘が続々と建てられ、1894年に葉山御用邸が竣工し、名実ともに別荘地葉山となりました。別荘の多くは一般住宅地へと変わりましたが、国登録有形文化財として登録されている建築物も現存しており、その歴史を今に伝えています。そして、1912年に水泳部の学生たちが森戸沖でヨットを帆走させたといわれており、日本ヨット発祥の地としても知られ、春と秋には50校近くの大学が参加するヨットレースが葉山沖で開催されています。

文化・芸術・スポーツ

名誉町民である堀口大學をはじめ、数々の文化人が葉山を愛してきました。葉山町文化協会主催の葉山町文化祭、町民主導型のアートフェスティバルである葉山芸術祭が長年開催されており、豊かな文化・芸術を親しむ心を育てています。

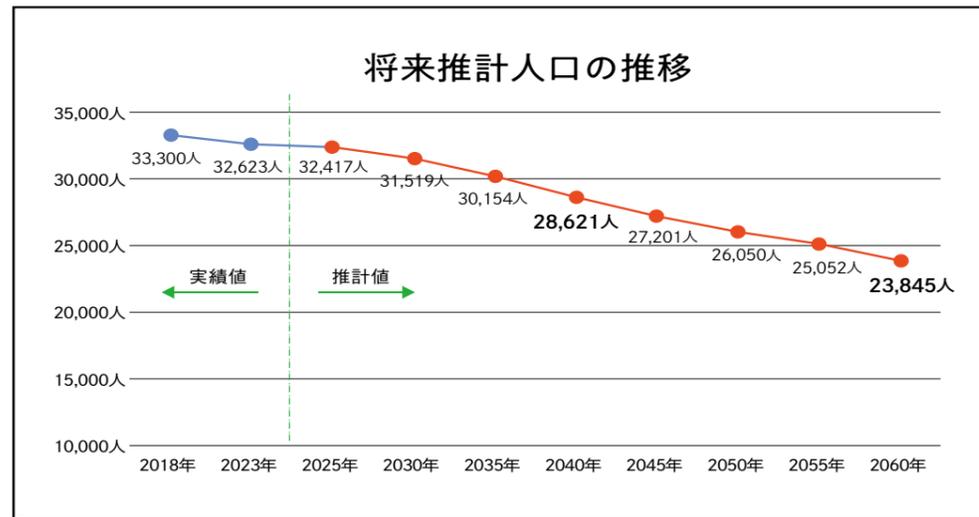
スポーツでは、ヨットやウインドサーフィンをはじめとするマリンスポーツが盛んで、世界大会等に出場する選手も多く在住しています。

03 将来予測

1. 将来人口

葉山町が実施した 2018 年と 2023 年を基礎としたコーホート要因法^{*}に基づく住民基本台帳人口推計によると、葉山町の人口は現在の微減傾向ではなく、人口減少のスピードが上がり、2040 年に人口が 29,000 人を、2060 年に 24,000 人を切ると推計しています。

第五次計画における将来の人口に対する基本的な考え方は、日本全体で人口が減少していく中であっては、葉山町においても人口が減少していくことは受け入れつつも、福祉等の施策を推進しつつ、子育て世帯の転入が多いという葉山町の特徴を維持していくために、教育・環境など町の長所を伸ばし、引き続き、子育ての場として選んでもらえるような町を目指すこととします。



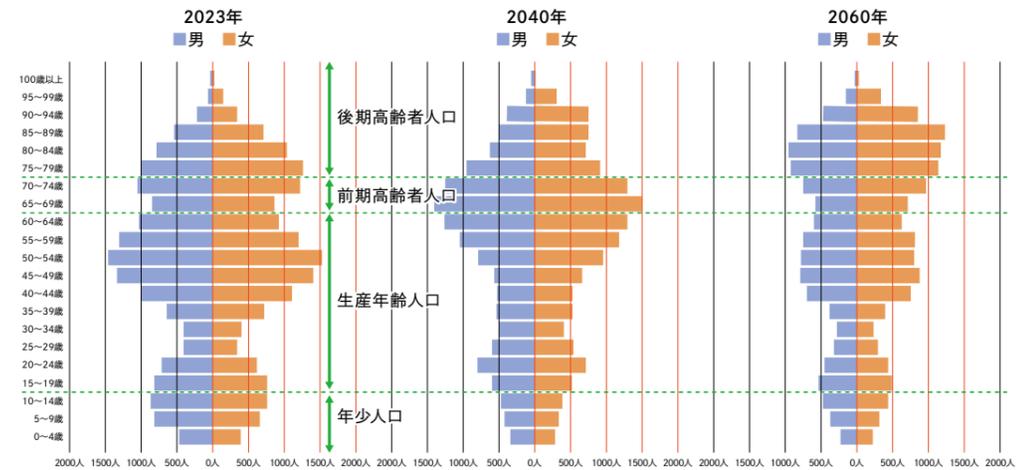
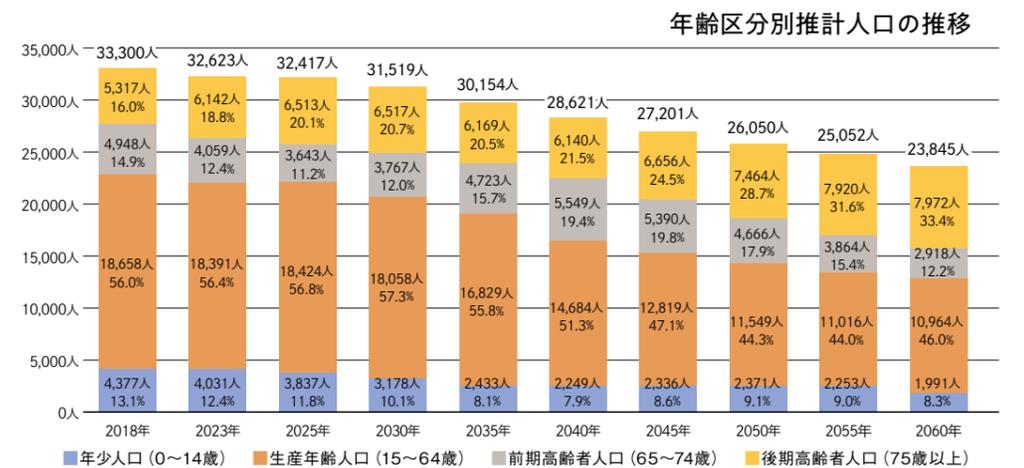
2. 年齢区分別人口推計

年齢区分別（年少人口：0～14歳、生産年齢人口：15～64歳、前期高齢者人口：65～74歳、後期高齢者人口：75歳以上）の人口推計を見ると、年少人口と生産年齢人口は減少が続く中、前期高齢者人口と後期高齢者人口は増加を続けます。2040年問題^{*}と言われる2040年に前期高齢者人口がピークを迎え、高齢化率が2040年には40.8%、2055年にはピークである47.0%となり、町民の2人に1人が

高齢者となります。

2023年比で見ると、2040年の人口は総数で12.3%減少しますが、生産年齢人口は20.2%、年少人口は44.2%、それぞれ減少します。つまり、総人口の減少スピードを上回る速さで、生産年齢人口・年少人口が減少していきます。その一方で、前期高齢者人口は2023年比で2040年には36.7%増加し、後期高齢者人口は2060年に進むにつれて大きく増加していくことから、超高齢社会がより進展します。

推計人口の人口ピラミッドを見ると、2040年には前期高齢者人口が多くなる傾向が顕著に見て取れます。そして、2060年には全体が減少、特に年少人口が減少し、高齢化の進展・人口の維持が大きな課題となっていくことがわかります。



04 町民の想い

1. 未来へ守りたいもの

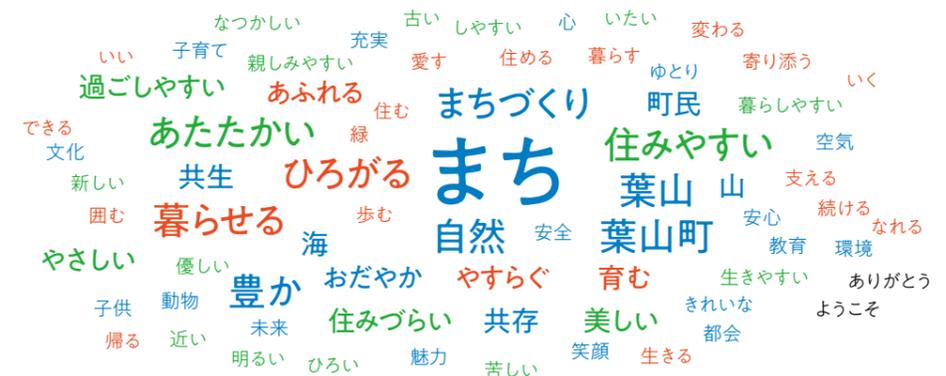
「美しい海とみどりに 笑顔あふれる

こころ温かな ふるさと 葉山」

葉山町は、三浦半島西北部に位置し、北は逗子市に、南及び東は横須賀市に接し、相模湾沿岸の西部や逗子市方面の北部を中心に市街地が広がっており、東部は山林が多くを占めています。そして、青い海と緑豊かな丘陵に囲まれた首都圏の温暖な地として親しまれ、1894年に御用邸が建設されてからは、御用邸の町あるいは保養地として広く知られ発展してきました。

葉山町の歴史をさかのぼると、1889年の町村制実施によって、木古庭、上山口、下山口、一色、堀内、長柄の6か村が合併して葉山村となり、1925年1月1日に町制を施行しました。そして、2025年1月1日に町制施行100周年を迎えました。別荘地として数々の名士や芸術家・文化人などに愛されてきた歴史、100年を経た今もなお、多種多様な人々が暮らし、美しく豊かな自然や風土、街並みを愛する想い・文化が葉山町には根付いています。

第五次計画を策定するにあたっては、18歳以上の町民の皆様を対象とした町民アンケート調査を実施しました。この町民アンケート調査で「将来の葉山町に向けた想いやキャッチフレーズ」を聞いたところ、次の図のように町民の皆様に通ずる町の将来への想いを見て取ることができました。



町民アンケートQ.27「将来の葉山町を目指す姿として、どのような「言葉(キーワード)」「キャッチフレーズ」がふさわしいと思いますか。」回答のAI分析結果。ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>)

3. 変化する社会情勢

先の見えない時代が到来した現代にあつては、前述した人口推計を踏まえつつ、社会情勢の変化に対応できる柔軟な計画づくりが必要です。

また、不測の事態が生じた場合は、政策・目標に捉われず臨機応変に対応していく必要があります。しかし、その中にあつても未来のあるべき姿を見失わないことが求められます。

刻々と変化していく社会情勢

1. 先の見えない時代の到来

技術革新、経済の変化、社会構造の変化が相互に影響し合いながら、変化のスピードが速い、先の見えない時代が到来しています。

例えば、IT業界は1年で7年分進む、もしくは、18年分進むなどとも言われており、ここ数年でも生成AI^{*}などは想像を超える速さで発達し、普及しています。

こういった変化のスピードが速い時代においては、適応力や柔軟な対応が求められます。

2. 人口減少社会への突入

我が国は2011年に人口減少社会「元年」を迎えました。それは葉山町においても例外ではなく、2012年に人口のピークを迎え、その後は人口の微減傾向が続いています。

新型コロナウイルス感染症の影響によって、テレワーク等の新しい生活様式の定着に伴い都市部から地方への移住意識が高まったことで、葉山町も2020年には人口増へ転じましたが、その後は再度減少し始めています。このことから、葉山町も明確に人口減少社会へ突入したと言えます。

4. 地球温暖化の深刻化

地球温暖化の深刻化によって、世界中で様々な異常気象が観測され、猛暑や干ばつ、台風の巨大化等による甚大な被害が発生し、もはや気候危機であると言われていています。葉山町はこれまでも町の美しい自然を未来へ継承するための取り組みを進めてきましたが、気候危機が葉山町にとっても著しい脅威となっていることを認識し、全町一丸となって気候非常事態に取り組んでいくため、2021年3月に「はやま気候非常事態宣言」を表明しました。

6. DX・デジタル化の急速な拡がり

デジタル技術の進展や新型コロナウイルス感染症の影響等を背景に、IoT^{*}、AI、ロボットなど、社会のDX、デジタル化が急速に浸透してきています。国は2021年に「デジタル社会形成基本法」を制定するとともに、2022年には「デジタル田園都市国家構想基本方針」を策定し、デジタル社会の力を活用した社会課題の解決を目指しています。葉山町では、2023年10月に「葉山町DX推進基本方針」を策定し、DX化に向けて取り組みを推進しています。

3. 新型コロナウイルス感染症の流行後の社会に向けて

2020年に世界中で感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、国内においても緊急事態宣言の発令等により全国一斉休校、外出の自粛、店舗の営業自粛など、生活環境や社会経済に大きな影響を及ぼしました。

新型コロナウイルス感染症は2023年5月に5類感染症へ移行しましたが、未来に向けて、コロナ禍以前の社会に戻るのではなく、感染症の影響によって定着した「新しい生活様式」の価値観等に対応し、そして、今後新たな感染症が発生した場合にも適応することが重要です。

5. 災害への意識の高まり

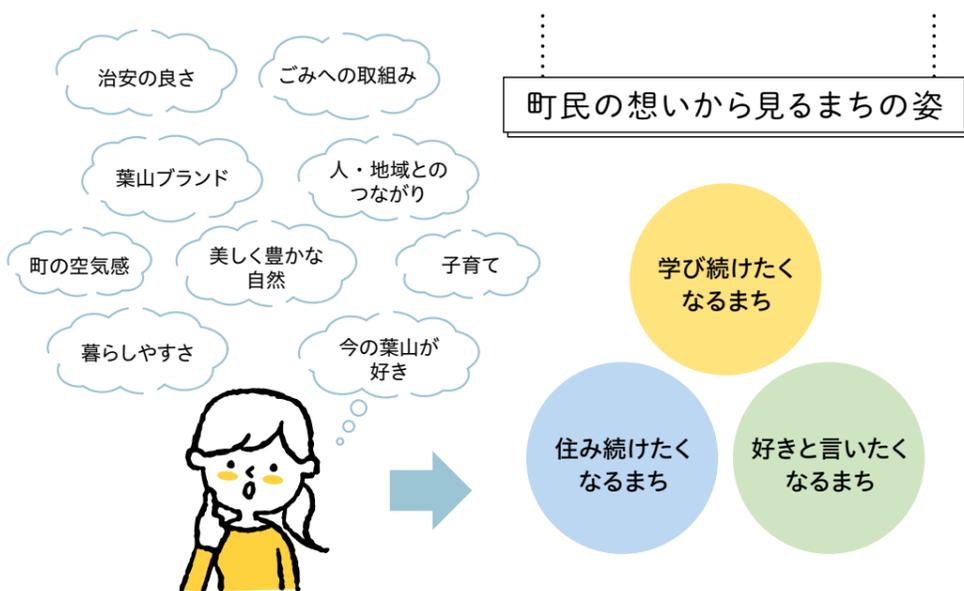
近年、我が国では災害が激甚化・多発化し、各地で甚大な被害が発生しています。加えて、近い将来における首都直下地震などの大規模な地震発生リスクが指摘されており、災害への意識が高まっています。2024年1月には令和6年能登半島地震が発生し、能登半島を中心に大きな被害を与えました。半島特有の被害状況も明らかとなり、葉山町においても将来の災害に備え、自助・共助・公助の一体となった取り組みの推進がより一層求められています。

その想いは第四次計画の将来像である「美しい海とみどりに 笑顔あふれる ころやかな ふるさと 葉山」と共通している点を見て取れたことから、第四次計画の将来像を引き継ぎ、未来へ守りたいものとして、これからの100年へ、未来へとつないでいきます。

2. 町民の想いから見るまちの姿

18歳以上の町民を対象とした町民アンケート調査・町民ワーキンググループ、そして町立小学校6年生・中学校3年生を対象としたまちづくり未来アンケート調査、これらの回答から読み取れる葉山町への想い・葉山町の強みは「今の葉山が好き」「町の空気感」「美しく豊かな自然」「子育て」「ごみへの取り組み」「人・地域とのつながり」「葉山ブランド」「暮らしやすさ」「治安の良さ」などでした。

そこで、町民の皆様が感じている想い・強みから見るまちの姿を「学び続けたいまち」「住み続けたいまち」「好きと言いたくなるまち」とし、この町民の想いを実現し続けるための施策を推進していきます。



05 2040年「自分らしく、つながるまち」へ

町民の想いから見るまちの姿として、3つのまちの姿を示しました。

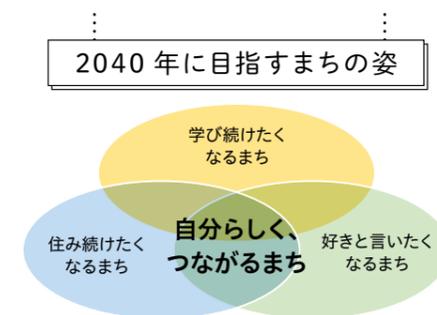
「学び続けたいまち」であり続けるためには、葉山町の資源を活かした地域に開かれた教育と施設で、町民一人ひとりが日々の生活の中で自分らしく学び・活動する、新しい時代の学びのあり方とそれにふさわしい空間が必要です。

「住み続けたいまち」であり続けるためには、葉山町の財産である美しく豊かな自然環境を守り続けるとともに、身体的な健康に向けて、健康の維持増進に取り組める環境整備や、病気を予防する・悪化させない取組みと、社会的・精神的な健康に向けて、人・地域とのつながりが感じられる居場所・参加機会が必要です。

そして、葉山町の歴史を紡いできた日々の暮らしは、地域とのつながり、趣のある街並み、海や里山などの自然環境、芸術・文化・スポーツを育む心を大切に守ってきました。この連綿と続く日々の暮らしは「好きと言いたくなるまち」の姿であり、未来へ受け継いでいくために、葉山町に関わる全ての人と連携し、まちづくりを進めていく必要があります。

この3つの町民の想いから見るまちの姿、つまり、葉山町の歴史や自然環境を大切にしながら、自立しつつ、人・地域・自然など葉山を織りなす様々なものにつながるまちは「自分らしく、つながるまち」の実現であり、それは精神的な豊かさの実現だと言えます。精神的な豊かさを実現し「葉山に住んで良かった」「ずっと葉山に住み続けたい」と幸せを感じられる町にしていくためには、葉山町に関わる全ての人が、それぞれが得意とする分野で力を発揮し、お互いに連携し、地域としてまちづくりを進めることができる環境整備が必要です。

葉山町には年齢・性別・国籍などを問わず多種多様な人々が暮らしています。様々な花が咲き誇る土のように、町民一人ひとりがそれぞれの精神的な豊かさを実現できる環境を作っていきたい。そういった「自分らしく、つながるまち」は、葉山らしいウェルビーイングの姿です。この葉山らしいウェルビーイングの姿を実現すべく、2040年に向けて葉山町に関わる全ての人とともに歩みを進めていきます。



2040年 葉山みらい日記



2040年葉山みらい日記は、2040年の「自分らしく、つながるまち」の姿を、未来に生きる様々な年代の町民目線で描いたものです。実際にこういった未来となっているかはわかりませんが、目指すまちの姿の実現に向けて、町行政は葉山町に関わる全ての人とともに取り組んでいきたいと考えています。

01

\ 38歳の日記 /

今日は5歳の息子と芝崎に行った。町の天然記念物に指定されている芝崎の磯ではいろいろな生き物がいて、息子は大喜びでタブレットでタコの写真を撮っていた！

保育園では海だけじゃなく、長柄桜山古墳群とか南郷上ノ山公園にも行ったみたい。葉山は海も山も近くて、この町にいただけで自然を感じられる。息子も葉山の自然の中でのびのびと成長していると思う。

\ 5歳の日記 /

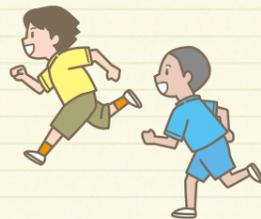


02

\ 8歳 小学生の日記 /

家ぞくで行った朝市でパパがワカメを買いました。パパが「このワカメは、は山でとれたワカメなんだ」って言ってました。朝市のあとはハマステーションへ行って、ママが野さいを買いました。

このあいだ学校で、は山のワカメと野さいがつかわれた「エシカルきゅう食」を食べました。は山の野さいは、家から出た生ごみのひりょうをつかってそだてられたものもあるって聞いてびっくりしたけど、生ごみが野さいになってもどってくるっておもしろいって思いました。「地さん地しょう」って学校に来たのう家さんが言ってたけど、は山の食べものはどれもおいしくてだいすきです。



03

\ 13歳 中学生の日記 /

学校で「探究的な学習」の授業があった。「探究的な学習」は小学校から続いている授業で、今日は地域のNPO団体から環境貢献の話聞いた。NPOには外国の人もいたから、タブレットに翻訳してもらいながら世界から葉山の話までいろいろなことを聞いた。この間の授業ではアメリカの中学生とも話すことができた。葉山のこと、世界のことを知って、私のやりたいこと・できそうなことが少しずつ見えてきたと思う。

そういえば、今朝おじいちゃんが学校に行くって言うっていた。近所の人と貯筋運動をしに行くんだって。学校は地域の集会所にもなっていて、いろいろな講座が開催されていたり、スポーツ団体も活動している。地域のつながりが感じられる場所だから、学校に行くのが私は楽しい。



05

\ 47歳の日記 /

子どもが風邪を引いてしまい、オンライン診療を受診した。デジタル化が進んだおかげで、診察も薬の処方もスムーズに受けられる。町内の医療機関同士しっかりとつながっているみたいだ。

そういえば、SNSで配信された広報葉山に「健康づくり講座」が載っていた。子どもだけでなく、自分の健康にも気を付けなくては。Web講座は気軽に参加できるから助かるな。



04

\ 34歳の日記 /

結婚を機に葉山へ帰ってきて、2か月が経った。久しぶりの葉山は昔と変わらず、環境への意識が高い人が多いと感じる。18歳で葉山を出てまず驚いたことは、ごみの分別数の違いだった。

葉山では今もビーチクリーンをしている人が多いし、高校生のときに始まったはやまエシカルアクションも今は色々な地域へ広がっている。環境に関する講座も毎月のように開催されている。葉山では当たり前の環境への意識も、ちょっと誇らしい気持ちになるし、いつか子どもが生まれるときのためにも、町の人と一緒にこの葉山の環境を守っていききたいと思う。来月には大学時代の友人たちが葉山に遊びに来るし、葉山は良いとこだぞって自慢しようかな。

06

\ 54歳の日記 /

今日は堀内防災広場の防災訓練に参加した。これまでではVRを使って防災訓練を受けていたんだけど、今日はこれまでの訓練を活かして、実際に体験型の訓練に参加してみた。有事に備えて様々な訓練を行ったんだけど、驚いたことに、参加者の顔ぶれが様々だったわ。高校生のような若者、30代ぐらいの夫婦、そして高齢者まで。もし避難所に行くことになっても、顔を見知っている人たちがいれば、きっと安心するよね。こういったつながりが大事なんだなって感じたわ。



07

\ 70歳の日記 /

仕事を退職し町内で過ごす時間が増えた。リモートワークのときも感じていたが、ゆったりとした空気が町に流れていると改めて実感した。確かに周りを見渡せば、家々の間隔もあり、ゆとりのある街並みが形成されている。それに、海や山だけでなく、街並みの中にも緑があるのは過ごしていて気持ちがいい。

細い道も多いが、車があまり入ってこず、子どもたちが道で遊び、犬の散歩をしている人も多く見かける。この間買った雑誌では葉山は「ペットが飼いやすいまちランキング1位」なんだそうだ。この街並みと人の営みがこの葉山の空気感をもたらしているのかもしれない。



08

\ 82歳の日記 /

今日のデイサービスへは近所の人と町の乗合タクシーに乗って行った。この年齢になって近所の人とつながりがあるのは、凄く安心する。近所の人々が声を掛けてくれて、一緒に出かけられるのは嬉しい。

家の近くには自動運転のバスも走っているし、免許を返納したけど、外に出てみようという気になる。ふと気づけば、電柱が減ったり、道の段差も少なくなっていて、歩きやすくなっていた。明日はオンライン回覧板で知った、下山口の健康の散歩道歩くイベントに参加するのが楽しみ。



2040年。

あなたが想像する葉山町は、
どんなまちになっていますか。

そして、

あなたや、あなたの大切な人は
どのように過ごしていますか。

2040年、

「自分らしく、つながるまち」へ。

葉山町はあなたとともに歩いていきます。